



公益財団法人SAJ

# SAJ Farm 通信

## vol.15

### 2011年10月号

公益財団法人

School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

## カンボジアの稲作

この9月、SAJ Farmの水田には穂が出始めました。7月に「夢追う子どもたちの家」の子どもたちと一緒に田植えをした稲が出穂の時期を迎えたのです。SAJ Farm、2年目、2度目のカンボジアでのお米作りが終盤に入ってきました。

今回の Farm 通信では、このカンボジアの稲作についてお話しします。カンボジアにおける稲作の位置づけとその全体像、また稲作の実際を知っていただければ嬉しいです。

カンボジアの GDP の約 30%を占める農林水産業はこの国の基幹産業であり、またその中でも、この国の全人口 1,470 万人の 70%が農業に従事していると言われてます。そして、農地全体の実に 80%が稲作を行うための農地となっています。まさにカンボジアは稲作国なのです。

古くから稲作国であったカンボジアは、1960年代には米の輸出国でした。その後ベトナム戦争の影響やポルポトに代表される内戦によって一時は米の生産量が落ち込んだものの、80年代から回復、90年代後半からは米の国内自給を回復し、再び輸出するにいたりました。

しかし、それでも現在のカンボジアの米の平均収量は 1ha あたり約 2.5 トンと、他国と比べて低いままです。例えば、日本の米の平均単収は 5 トン/ha ですし、近隣国のベトナムも 4 トン強/ha です。東南アジアの中でもこれは低い生産量です。

その原因は主に、①灌漑設備の未発達、②そのために水の適切な管理によって高い収量を得ることのできる高収量品種が普及しないこと、③そして、長年にわたって肥料投入が少ないままに米の単作を続けてきたことによって土壌中の養分が少なくなっていることが挙げられます。

また、カンボジアの稲作は雨季作と乾季作に分けることができます。雨季作は播種から収穫までを主に 5~11 月の間に行い、乾季作は 12~4 月に行います。灌漑設備の不十分なカンボジアでは作付面積の 90%弱で雨季作を行っており、また私たちが現在行っているのももちろんこの雨季作です。ちなみにカンボジアでは同一の水田で雨季作と乾季作を行う、いわゆる二期作を行うところはほとんどありません。そこまで灌漑設備が整っていないからです。SAJ Farm では、もし乾季作でも十分に収量が得られるのであれば、この二期作に全面的に挑戦しようと考えております。

では次に、私たちが現在行っている雨季作の稲作について、その水田準備から収穫・精米までの実際の流れを、私たちがこの 1 年半この SAJ Farm で経験してきたことを交えながらお話しします。

雨季が到来する前の 3,4 月、この頃に各農家は田んぼへの元肥(作物栽培前に施す肥料)の施肥を行います。カンボジアでは、ほとんどの農家が有機物を発酵させた堆肥等を施肥するのではなく、牛フンや鶏フン、籾殻燻炭などをそのまま畑に施肥します。私たちの水田では今年、有機物を発酵させたぼかしと呼ばれる肥料を多量に施肥しました。



出穂、始まる！



後 1 ヶ月半で小金色の田んぼに。



**地元の農家さん。  
牛の力を借りての、代かき。**

この時期にはこれらの元肥に使う有機物がほとんど手に入らなくなってきました。例えば、1,2月には養鶏所に数千もの鶏フンの入った袋が積まれていたのに、3月に私たちが尋ねて行ったちょうどその時に、バタンバンという一大稲作地域から来た農家の方が3,000袋も購入しており、その養鶏所の鶏フンの在庫が一気になくなってしまいました。翌日、カンボジアで一番の養鶏産地に飛びましたが、ここにもほとんど在庫がなく、養鶏業者さんに話を聞くと稲作農家の方々が既に購入しており次の乾季まで在庫はないという話でした。ちなみに、カンボジアでは鶏フンは1袋に約20kg入っていて約1~1.5\$で購入できます。

籾殻燻反にしても同じ状況です。その他、落ち葉にいたっても、1,2月に堆肥作りのために落ち葉集めをしていた山に行ったのですが、この時期はまるできれいに掃除されたかのように落ち葉がなくなっていました。

そして、雨季の始まりと共に水田の耕起・代かきが行われ、種もみの播種となります。耕起と代かきは、ほとんどの農家がまだ牛を使っていますが、最近は耕運機をレンタルして行う農家も増えています。こうして水田準備ができて、水が溜まったところで種もみの播種を行います。また、日本では、種もみの播種前に塩水につけて良い種と悪い種を分けるために塩水選と呼ばれる作業を行いますが、カンボジアではこの方法が知られておらず、そのまま播種します。

この種もみの播種から約1ヶ月後に苗取り・田植えとなります。カンボジアでは苗取りも田植えももちろん手作業です。この作業は、一軒の農家の人数だけではとても終わりませんので、近隣住民との共同作業で行い、各農家の水田で順番に行っていきます。

田植えは、私たちの周りの農家を見てみると、ものすごい密植で、5~6本の苗を約15cm程の間隔で植えています。SAJ Farmの田植えは、2~3本の苗を30cm間隔で広く植えています。こちらの方が、1本1本の苗が競合することなく土から養分を十分に吸収することができると思っています。

ここまでの田植えで、稲作農家の繁忙期は収穫まで終わります。田植え後は、水管理・除草・追肥(作物の生育過程で肥料を施すこと)を行って収穫の時を待ちます。適切な水管理は稲の生育にとってきわめて大事なのですが、SAJ Farm周辺では、用水開発が進んでいないので常に水を田んぼに蓄えていることができている水田をほとんど見かけません。

その後、田植えから2ヶ月ほどで穂が出始め、そこから約1ヵ月半で収穫となります。そして、脱穀・乾燥・精米を行い、ようやく私たちが食べるお米が出来上がります。

収穫は共同作業で行い、脱穀は少量であれば手作業で、多量であれば脱穀機を田んぼまで運んで来てもらって機械で脱穀します。この後、採れた籾は3日から1週間ほど天日干しをして、乾燥させて、村や市場の精米所で精米をしてもらいます。この時面白いのは、精米をしてもらう代金は無料なのですが、代わりに籾から取れる米ぬかは豚の餌として、また籾殻は主に次期の稲作のための肥料として精米所が販売します。

出穂を向かえたSAJ Farmの水田からも、あと約1ヵ月半で「夢追う子どもたちの家」の子どもたちが食べるお米の収穫です。今年の稲は、地元の人が誉めてくれるくらい、他の農家の稲と比べて太い茎を持っておりしっかりと育てられています。

昨年はこの時期に多量の雨が降り、近くの川が増水して水田が1週間も冠水してしまったため、全体の半分の稲が死んでしまいました。しかし、今年のSAJ Farmの稲作は新たに造成をした水田で行っており排水の設備を整えているので、水田が冠水してしまうことはまずありません。

しかしそれでも、農業は人知をはるかに超えた自然の中で行うものですから、最後まで安心はできません。「夢追う子どもたち」の子どもたちと一緒に田植えをしたこの稲を、きちんと収穫して子どもたちのもたに届けられるまで、しっかりと守っていきます。

## 編集後記

カンボジアに来て1年半ちょっと。今では肌の色もすっかり焦げて現地の方に間違われることも多くなりました。それと共に、現地の人々の考え方や思考も体に浸透してきた気がします。

SAJ Farm スタッフ 五月女